

# あさひ燦々

理念 地域の人々と勤労者の方々に信頼される医療を提供します



○基本方針 ① 患者さんの権利を尊重して、患者さん中心の医療を実践します。 ② 多職種と幅広く連携し、地域医療の充実に努めます。 ③ 地域の中核病院として急性期医療・救急医療の充実に努めます。 ④ 慈愛の心に満ちた医療人を育成します。 ⑤ 一般医療を基盤とした勤労者医療を積極的に実践します。 ⑥ 働き甲斐のある職場づくりをし、健全な病院運営を行います。

## 巻頭言

### コロナ禍を経験して



院長 宇佐美 郁治

新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症に向かい始めてからもうすぐで2年になります。昨年も一昨年に引き続き経験したことの無い出来事の連続でしたが職員の皆で知恵を出し合いひとつひとつ対応してまいりました。現状はコロナ診療と共存して一般診療を行っています。コロナの第6波が来ないことを願うばかりです。

この間に(令和3年9月時点)438名の患者さんを経験し、263名の患者さんに対して入院治療を行いましたので当院のコロナ禍で経験したことを振り返ってみました。

1例目の患者さんは高齢の患者さんでした。最初は治療法がわからないた

め感染症の専門医、呼吸器内科の専門医と連携をとりながら対症療法中心の治療を行いました。その後、抗ウイルス薬、中和抗体薬、免疫抑制薬、抗凝固剤などが認可され、防戦一方から武器を持って戦える状況になってきました。令和3年8月に認可された中和抗体薬をいち早く導入してからは一段と治療成績が改善されました。重症度をみると、第4波までは入院してからも病状が悪化する患者さんが多く中等症Ⅱの患者さんの比率が高かったのが、第5波では重症化する患者さんが減り中等症Ⅰでとどまる患者さんの比率が高くなりました。入院期間は第3波までは2週間を超えていましたが、第5波では5日以内と短縮しました。これは、ワクチン接種

率が高くなり病態が解明されてきて治療薬も増え、検査機器も充実してきたためと考えています。コロナに対応する病床は当初は 6 床をゾーニングして感染症対応病床 2 床で対応しました。徐々に増やして最終的には 50 床をゾーニングして 15 床で対応し、一時的には 15 人以上入院されたこともありました。何とか乗り切ることができました。

新型コロナウイルス感染症への対応は、「地域医療支援病院として地域のニーズに応えるのが当院の使命である」という当院の役割を職員で共有して、コロナウイルスに感染した患者さんや各種疾患との鑑別を要する発熱患者さんへの対応、地域のワクチン接種事業の協力などを行ってきました。今後は地域の感染状況をみながら行政機関とも調整を取り対応してまいります。

コロナ禍の中では対面が叶わないためコミュニケーションが取りにくい状況が続きました。以前は研究会などで地域の先生方にお会いする機会が多く、対面でいろいろなご報告もできましたが、コロナ禍では情報がうまく伝わらない事が危惧されたため、地域連携の基本に立ち返り病診連携を見直しました。具体的には紹介状の返書を確実にを行う取り組みを行い返書

漏れは殆ど無くなったと思っています。緊急事態宣言下では病院を受診することを躊躇う患者さんが多くいらっしゃいました。かかりつけ医でお薬を出してもらおうとお話をしたところ、意外でしたがかかりつけ医を持っていない患者さんが多くいらっしゃることが分かりました。これまでも増して逆紹介を推進するなかで「地域の先生方と当院の両方で診療するためにかかりつけ医を持ってください」という患者さんに対しての啓蒙を進めてまいります。労災病院の紹介状を持って地域の先生方を受診する患者さんが増えると思います。よろしくお願いいたします。

令和 2 年 6 月にグランドオープンしました新病院建設の大きな目標は、地域医療支援病院を取得して急性期病院の機能を高めるということでした。コロナ禍を経験して当院の急性期病院としての地域における役割を再認識することができ急性期病院としての機能を高める事が出来たと思っています。病院の理念であります「地域の人々と勤労者の方々に信頼される医療を提供します」を実践し、皆様により頼りにされる病院になっていきたいと思っています。

今年も皆様方ご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。よろしくお願い申し上げます。

## 診療トピックス



### 前立腺肥大症について

泌尿器科主任部長 西川 源也

最近、このような症状はありませんか？

① 尿が出るまでに時間がかかって、勢いが弱い。(尿勢低下)

② 排尿が終わっても、まだ残った感じがする。(残尿感)

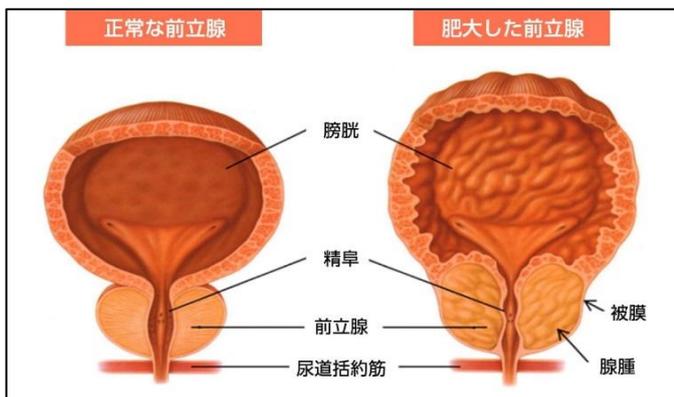
③ 排尿で夜間に何回も起きる。

(夜間頻尿)

- ④ 排尿したくなったら、トイレに駆け込まないと漏れそうになる。(尿意切迫感)

このような症状は、前立腺肥大症が影響しているかもしれません。

前立腺は男性の膀胱の下にあり、尿道を取り囲んでいる臓器です。前立腺肥大症は、年齢とともに徐々に肥大した前立腺によって尿道が狭く圧迫されることで、上記の症状が出る場合があります。場合によっては自力で排尿できず(尿閉)、尿道から膀胱へカテーテルを留置する必要があります。



前立腺肥大症は、簡単な検査ですぐに診断できます。

#### 質問票 (国際前立腺症状スコア)

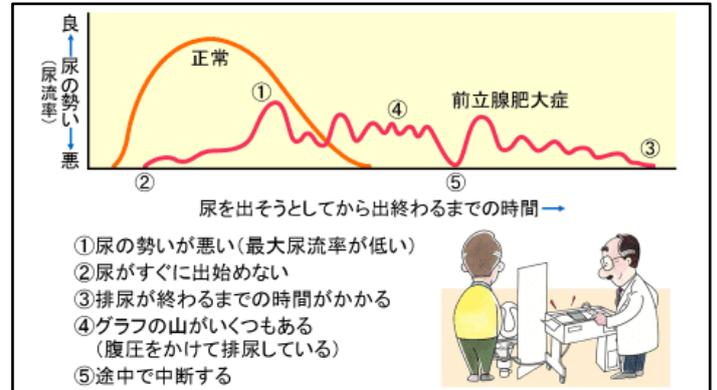
排尿状態を評価するための質問票です。尿勢低下、残尿感、尿線途絶(途中で排尿が止まる)、尿意切迫感、腹圧排尿(お腹に力を入れないと排尿できない)、昼間頻尿、夜間頻尿に関して点数化し、前立腺肥大症の重症度を評価します。

#### 超音波検査 (エコー)

超音波検査にて前立腺の体積や、排尿後の残尿の測定を行います。

#### 尿流量検査

排尿の勢い、排尿時間、排尿量などを測定します。



前立腺肥大症の治療法は、検査結果によって選択します。

#### 行動療法、生活指導

食事指導、運動、ダイエット、禁煙など。

#### 薬物療法

前立腺肥大症によって狭くなった尿道を広げる、肥大した前立腺を小さくする、排尿に関する筋肉の緊張をとるなどの効果がある内服薬があります。患者さんの症状に合わせて、内服薬を選択します。

#### 手術療法

行動療法、薬物療法で症状の改善が得られない場合は手術を検討します。内視鏡手術により前立腺を削る治療(TURis-P)や、レーザーで前立腺を核出する治療(HoLEP)または蒸散する治療(PVP)があります。

最初に項目として挙げたような症状が気になる方は、ぜひ一度泌尿器科を受診してみてください。



## 高齢者が気を付けたい多すぎる薬と副作用

～ポリファーマシーを知っていますか？～



薬剤部長 外岡 久和

高齢者では、処方される薬が6つ以上になると、副作用を起こす人が増えることが分かっています。(図1) また、ふらつき・転倒は薬を5つ以上使う高齢者の4割以上に起きているという報告もあります。起こりやすい副作用はふらつき・転倒、物忘れです。うつ、せん妄(頭が混乱して興奮したり、ボーっとしたりする症状)、食欲低下、便秘、排尿障害なども副作用によるものかもしれません。

のみ残しの多い薬や調子が悪くなる薬があれば、医師や薬剤師に教えてください。無用な薬や害になっている薬を減らして健康な生活を送ってください。薬について疑問があれば、医師あるいは薬剤師に相談しましょう。

日本老年医学会がパンフレット(図2)を作成しています。そのなかから「高齢者の薬との付き合い方」についてご紹介します。

「高齢者の薬との付き合い方」(要約)

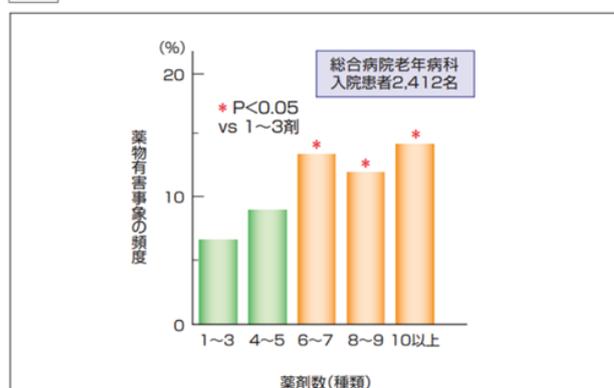
- 自己判断で薬の使用を中断しない
- 薬は正しく使えば病気の予防や生活の質の向上に役立ちます。「多すぎる薬は減らすことが大事」ですが、

絶対に自己判断による中断は避けましょう。

- 使っている薬は必ず伝えましょう
- 複数の医療機関にかかっている場合は、かかりつけ医や薬局をつくり、お薬手帳を1冊にまとめて病気と薬をすべて把握してもらいましょう。サプリメントや市販薬も含めて正確に伝えましょう。
- むやみに薬を欲しがらない
- 医療機関は病気や健康をみてもらうところで、薬をもらいに行くところではありません。
- 若い頃と同じだと思わない
- 加齢とともに体の状態、薬の効き方が変化します。高齢になると病気を完全に治すことは難しくなります。安全を考えた薬の使い方が大切になります。
- 薬は優先順位を考えて最小限に
- 医師は副作用を避けるために、“薬の優先順位”、“本当に必要な薬か”、“高齢者に副作用を起こしやすい薬はないか”、“生活習慣の改善”を考えて薬を決めています。



図1 服用薬剤数と薬物有害事象の頻度



教えてドクターQ&A

【質問】

新型コロナ感染が減り緊急事態宣言が解除されたので、久しぶりに実家へ帰り両親に会いました。母の手料理をおいしく食べたのですが、昔に比べて味が濃くなったような気がしました。煮物やみそ汁などずい分塩辛く、ぬか漬けなど漬け物にはまっているようで老夫婦二人暮らしでは食べきれないほど大量に漬け込んでいました。両親の血圧が心配です。母に言いましたが取り合ってもらえません。離れて暮らす親に減塩に取り組んでもらいたいののですがどうしたらよいのでしょうか？どうか先生教えてください。(40歳代 男性)



今回は食事療法のお話ですので管理栄養士さんに答えていただきます。

【回答】

和食は、塩分を使う料理が多いため、毎日食べている煮物や味噌汁の味が塩辛くなっても、なかなか気づかないものです。減塩について、私たち管理栄養士よりいくつか提案させていただきます。

和食の味付けは、だしを効かせて減塩にすることをお勧めします。市販の和風だしの素は塩分が含まれているため、注意が必要です。最近では、減塩対策として塩分不使用のだしや粉末の昆布やかつおなどのうまみ成分を利用した商品があります。

味噌汁などの汁物の塩分は、塩分測定器で塩分濃度を測ることができます。次ページの図のような塩分測定器で、簡単に測ることができます。家電量販店などで3000円くらいから求めになります。ご両親にプレゼントしてはどうでしょう。

ぬか漬けなどの漬物は、塩分が多い食品です。漬物の代表の梅干しは、大きいものでは約3g、減塩タイプのもので約1gの塩分が含まれています。漬物を作ることが楽しみなら、おから漬けや浅漬けなど塩分を控えた漬物を紹介してはどうでしょう。おから漬けは、大豆と昆布のうまみを利用した漬物です。浅漬けは、商品説明書の通りの時間漬けてください。長時間つけると塩分が多くなります。漬物は塩分が多いため、1日2切れ程度にとどめましょう。

減塩グッズでは、スプレー式しょうゆさしがあります。表面にスプレーすることで薄味でも美味しいと感ずることが出来ます。普通にしょうゆを上からかけるよりも、ぐっと量を抑えることができます。

ご両親に塩分の摂り過ぎで起こる症状（喉の渇き、むくみ、血圧上昇など）がないか確認することも塩分摂取量の目安になるのでお勧めします。

主任栄養士 木村 華委子



塩分測定器



スプレー式しょうゆさし



## 当院は臨床研修病院です

当院は厚生労働省から指定された臨床研修病院です。  
指導医を中心とした適切な指導の下、初期臨床研修医が診療に従事  
しております。  
みなさんのご理解とご協力をお願いいたします。



## 【編集後記】